

平成30年度

大学院履修要項



—日本大学大学院医学研究科—

日 本 大 学



学祖 山田顕義

日本大学校歌

相馬御風 作詞
山田耕筈 作曲

日に日に新たに 文化の華の
さかゆく世界の 曠野の上に
朝日と輝く 国の名負いて
巍然と立ちたる 大学日本
正義と自由の 旗標のもとに
集まる学徒の 使命は重し
いざ讃えん 大学日本
いざ歌わん われらが理想
四海に先んじ日いつる国に
富嶽とゆるがぬ 建学の基礎
栄ある歴史の 道一すじに
向上やまざる 大学日本
治世の一念 炎と燃ゆる
われらが行く手の を見よや
いざ讃えん 大学日本
いざ歌わん われらが理想

日本大学大学院医学研究科は、生理系・病理系・社会医学系・内科系・外科系の5専攻からなり、各専攻に博士課程を擁する歴史ある大学院研究科です。独創的研究能力と豊かな人間性を兼備した教育者と研究者を養成する任務を担うとともに、高度な先進的医学研究を推進することを目的としています。本研究科で研鑽する学生は2018年1月現在134名であり、その研究領域は基礎医学から臨床医学まで多岐に渡っています。一般募集枠のほか、官公庁・研究所・病院等に勤務し入学後もその職を有する者を対象とした社会人枠を備えていることも本研究科の特徴です。

今日私達はグローバル化の時代を生きています。その中で、「知の創造」と「社会貢献」という使命を果たしていくためには、多様な教育を受けた学生諸君が新しい学問領域を開拓していくことが極めて重要です。本研究科の教育プログラムには、従来型大学院プログラムと横断型医学専門教育プログラムとがあります。前者では、専門領域である主科目に重きを置いて優れた医学研究者の育成を行っていきます。さらに、副科目を積極的に履修することにより多方面にわたる学習も行うことができます。一方、後者では、大学院と専門医を並行して指導するプログラムとして本学に特徴的なカリキュラムです。これは内科系または外科系の専門医資格の取得と同時にその分野の研究者を育成するものです。

本研究科の最優先事項は、世界に情報発信できる医療系グローバルリーダーの育成です。これから医学を深く学ぶ諸君が、自主創造の理念の基に、さらに新しい時代のアカデミアの流れを切り開いてくれることを心から期待いたします。

大学院医学研究科長 高 山 忠 利

本学の教育方針は、良き臨床医、優れた医学研究者、熱意ある医学教育者の育成にある。これを実現するには、自らの経験を客観的にとらえる臨床的技能、学問的に確かめるための知識、指導者及び仲間、発信し伝えられる能力が重要である。さらに、世界に向けて存在感を持つため、観察したアイデアを概念化する科学哲学などの素養、新たなことを人々に伝える斬新なプレゼンテーション技術が必要となる。こうした研究活動を支える基盤は、いわば心意気と言い換えられるもので、書物を読んだだけでは得られない極めて人間的なもので、魅力的な指導者の下、自由に討論を行うことが可能なチームの中で初めて習得できるものと思う。こうした中で次の世代の魅力的な指導者を生み出すのが、大学というアカデミアの使命といえるところである。

日本大学大学院医学研究科は、指導教官及び研究施設が充実しており、研究施設としては総合医学研究所医学研究支援部門(電子顕微鏡室、感染症ゲノム実験室、実験動物飼育室、医用電子室、RI 実験室等)があり、誰でも利用できる環境にある。大学院 4 年間の間に指導教官の下で、若い時期に研究についてじっくりと取り組む時間を持つことは、素晴らしいチャンスであり、将来の臨床医として、研究者として、教育者としての発展の基盤となる。恵まれた研究環境を利用して、魅力的な研究を行い、世界をリードする準備を行ってもらいたい。

大学院での選択科目には、現象のとらえ方に関する方法論、データの分析・統合に役立つ解析法、巨視的な視点を与える概念論など多彩な内容を用意しているので、研究内容に合わせ大いに利用して欲しい。大学院では毎年特別講義を行い、内外の卓越した研究者をお呼びして講演して頂いており、今年度も意欲的な企画を立てている。各分野の研究会や講演会などに関する情報もより広く広報できるよう体制を整えている。狭い専門性にとらわれず、是非参加しアカデミアの一員として知の楽しみを是非感じ取って欲しい。

各分野とも専門医資格取得に対する意欲が強く、大学院との両立を図りたいとの要望が高まってきたため、平成 20 年度から横断型医学専門教育プログラム(専門医取得プログラム)を開講した。これは専門医を取得するための教育を受けながら研究を行い、学位を取得する大学院プログラムである。これは、専門分野の知識手技などの習得と研究を両立させるものであるため時間的な負担は大きいですが、授業料が従来の半額となる減免措置もあり、臨床と研究を両立させながら進んでいきたい諸君には是非チャレンジしてもらいたい。

研究担当 内 山 真